

令和5年度 自己評価・学校関係者評価報告書

令和6年3月29日

学校法人 聖和学園 旭ヶ丘幼稚園

1. 本園の教育目標「明るく 素直に 逞しく」

明るく…いつでも、どこでも、誰にでも挨拶のできる子ども。

素直に…人の話をよく聞く子ども。ありがとう、ごめんなさいが言える子ども。

逞しく…心も体も強い子ども。他人を思いやる子ども。自分のことは自分でできる子ども。

2. 本年度重点的に取り組む目標・計画

- ・「計画的な遊びの提供と展開」… 週案にて、より豊富な活動内容を計画し、実践していく。創造遊び、戸外遊び等も具体的な計画を設け、遊びが発展するような促しをする。
- ・「園生活において、社会性を高め合う」… 個々への援助に偏らず、メリハリをつけながら、集団として活動を進めていく。また園生活において守らなければいけないルールを、朝の会や帰りの会等を通して、言葉や絵カードにて伝えていく。
- ・「保護者との連携」… 子どもたちの育ちを共有するために、日々の園生活での成長等を保護者に丁寧に伝えられるよう心掛ける。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

※評価（A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった。）

	評価項目	評価	理由
1	計画的な遊びの提供と展開	B	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちのアイデアを取り入れながら、遊びを発展させることができたが、創造遊びや作品展などの活動において、子どもたちのアイデアを十分に取り入れることができなかった。 ・日々の活動が、一様にならないように、子どもたちの言動等から、興味ある内容から計画できていた。新しい遊びをさらに増やしていく。 ・週案に新しい遊びや活動を計画することができたが、実践できた活動とできなかった活動があった。 ・新しい活動などを取り入れながら進めることができていた。自由遊びや創造遊びの時間など、更に計画的に組み込み、遊びの発展を促す。
2	園生活において、社会性を高め合う	B	<ul style="list-style-type: none"> ・できない事を伝えたり、自分の気持ちを伝える事が難しい子に対して、保育者だけを頼るのではなく、子ども同士のやりとりを勧めたりし、共同性を育めるよう促した。 ・個々への援助に偏ってしまうことがあった。 ・園でのルールを伝える際、絵本や紙芝居で伝えることができた。生活絵カードも取り入れていく。 ・保育者への言葉遣いや態度が望ましくない場合があったが、都度丁寧に声掛けをした。 ・園児の気持ちにより沿いながら、トラブル等起きた際に、朝の会等でひとつひとつの生活習慣やルールを丁寧に伝えることができた。関わり方にメリハリをさらにもたせ、集団としての意識を高めていく。
3	保護者との連携	A	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの日々の様子や連絡事項など、丁寧に伝えることができた。口頭だけで伝えきれない時は、連絡ノートを活用していく。 ・子どもたちの成長等を、保護者がより実感できるような伝え方ができていた。 ・保護者に園での様子を伝えることで、日々の成長を共有でき、また安心してもらうことができた。連絡等、さらに密にし、すれ違いのないよう進めていく。

4. 総合的な評価結果

※評価 (A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった。)

評価	理由
B	<ul style="list-style-type: none"> ・状況に応じて、活動の計画を立てることができたが、実践できない時もあったため、次年度は実践できるようにしていく。 ・生活絵カードを活用しきれなかった。 ・子どもたちの意見や考えを尊重しながら進めることができた。 ・全ての項目において、職員間で共有できている。次年度は子どもの成長を見守りながらも、より丁寧な指導をし、保護者がさらに安心して預けられるような環境づくりをしていく。 ・保護者と良好な関係を築くことができ、また子どもたちも安心感を持って園生活を送ることができていた。 ・創造遊びなどにおいて、子ども主体に捉えて、アイデア等を形にしていけるよう、さらなる保育内容の充実を図る。 ・行事が近づく活動が一様になってしまうため、余裕をもって取り組めるようにしたい。 ・概ね、目標に向かって、職員一同真摯に取り組むことができていた。 ・日ごろの声かけなど、丁寧に一人ひとりと関わりを持ち、園児が穏やかに、幼稚園生活を楽しめるような配慮ができていた。 ・個別の関わりが強くなりやすいため、全体で見たときに何を重要と捉えるか考えながら進めていく。また、環境設定などをよく考え、環境から子どもを変えていくような工夫が必要。

5. 次年度取り組む課題

	課題	具体的な取り組み方法
1	個性にあった環境の設定	全体を一様にみるのではなく、一人ひとりの子どもの性質にあった保育の環境を設定していく。
2	保護者との密な情報共有をする。	子どもの家庭内での様子と幼稚園生活での様子を照らし合わせ、相談し合いながら、保育を進めてき、幼児期に相応しい豊かな育ちを促す。
3	季節や天候に合わせた遊びの充実と食育の充実	季節や天候に合わせた遊びを取り入れながら、一つ一つの活動が充実するように計画する。また、臨機応変に、計画通りではなくてもその時にしかできない遊びを実施する。また食育の充実を図る。

6. 学校関係者評価委員会の評価

特に指摘する事項もなく、妥当であると認められる。

次年度も危機管理意識を持ち、引き続き園児と保護者に寄り添った丁寧な教育・保育を実践してほしい。